

ねじ式



[ねじ式 下载链接1](#)

著者:つげ義春

出版者:小学館

出版时间:1976-04-20

装帧:平装

isbn:9784091920218

この本は凄い。なにが凄かってこだわりが凄い。まず大きさだが当時のガロと同じ大きさなのである。それからタイトルにもなっている「ねじ式」がオリジナルの修正前（眼科の看板の文字が眠科のまま）だったり、2色でそのまま掲載されているのだ。

それから「ねじ式」を例外として後の代表作はすべて発表された順番に掲載されている。

「沼」「チーコ」から「李さん一家」「紅い花」「ゲンセンカン主人」そして「やなぎや主人」へとつながる。（出版社の問題でガロ時代のみ）

つげ義春の作品はほとんどが短編で、今まで出版された単行本では、それぞれ代表作

が重複して掲載されていたり、順番が滅茶苦茶だったりと不満点があったのだがそれを解消している。

オマケに巻末にはエッセイ3つと解説・資料として今まで出版された単行本のリスト、彼の年譜がついていて資料としての価値もあります。

話は変わって「ねじ式」についてだが、今の若い人にもつげ義春は知られている。しかしほとんどの人が「ねじ式」が好きと言う。というか「ねじ式」しか知らない人がほとんど。映画化されたり、色々なところでパロディされていてある意味記号的な扱いをされているような気がする。この本もただの「ねじ式」という名前で出版されたのもそうすれば売れるからなのだろうか。

僕は確かに「ねじ式」は1コマ1コマ、セリフ一つとっても頭にこびりつく程強烈だとは思いますが、つげ義春を代表する作品だとは思えない。個人的に「ねじ式」より好きな作品は沢山あります。

冷静に考えてみたらこの本はそういった若い人につげ世界を知らせるいい本なのかも。とにかく1家に1冊！！

出版社 / 著者からの内容紹介

▼第1話/ねじ式▼第2話/沼▼第3話/チーコ▼第4話/初茸がり▼第5話/山椒魚▼第6話/峠の犬▼第7話/噂の武士▼第8話/オンドル小屋▼第9話/ゲンセンカン主人▼第10話/長八の宿▼第11話/大場電気鍍金工業所▼第12話/ヨシボーの犯罪▼第13話/少年▼第14話/ある無名作家●あらすじ/1間の狭苦しいアパートに住む夫婦。売れない漫画家の夫を、ホステスをする妻が養っている。その妻がある日、夫に向かって「文鳥が飼いたい」と言い出した。夫は渋るが、お金まで用意していた妻に押され、彼らは連れだって文鳥を買いに行く。いつしか「チーコ」と名付けられたその文鳥は、しだいに夫にも可愛がられるようになっていた。そんなある日、夫は遊んでいる最中に、誤ってチーコを床にたたき付け、死なせてしまう(第3話)。▼温泉にやってきた武士・平田は、泊まった宿で相部屋を言い渡される。部屋に入ってきた男は異相の持ち主であり、かつ何気ない動作にもすきがなく、平田の目にはいっばしの武芸者と映った。その後も平田は彼の振る舞いを観察し続け、確信をもって「彼は宮本武蔵である」と宿の主人に告げる。主人がそのことを触れ回った結果、宿にはたちまち近所から客が押し寄せ、超満員となったのだが…(第7話)。▼漫画家をしている安井のもとに、かつてアシスタントをしていたときの同僚・奥田が訪ねてきた。彼はアシスタントの仕事では自己表現ができないと考え、安井と入れ違いのように辞めてしまっていたのだ。しかしその後もつきあいは細々と続き、その間に奥田はバーテンを経由して、挙句にトルコ嬢のひもに成り下がっていた(第14話)。●その他DATA/解説・佐野史郎

出版社からのコメント

誰もが経験したことがあるような悪夢の世界を再現し、コミック界に金字塔を打ち立てた「ねじ式」をはじめ、作者の代表作ばかりを集めた短編集。巻末に、映画『ゲンセンカン主人』に主演した俳優/佐野史郎の解説を掲載。

作者紹介:

つげ義春 (YOSHIHARU TSUGE)

1937年東京の葛飾に生まれる。

5歳の時に父親に死なれ、母と兄弟達（弟の忠男も漫画家）と転居しながら極貧生活を送る。9歳の時に母が再婚し、義父が来るが虐待にあう。

小学校卒業後、進学せずにメッキ工場に就職。あまりにもの重労働に遅れる給料の支払い、何度も逃げ出したりした。そのような生い立ちのせいか対人恐怖症でもあり、人とあまりかかわらなくてもいい漫画家になろうと思い漫画家になった。

水木しげるのアシスタントなどをしつつ、ガロにて「沼」「チーコ」などを発表。それまでの漫画表現にとらわれない新しい世界を作る。

70年代の学生紛争まっただ中の時代は「ガロ」とつげは若者にとってかかせないアイテムであった。

その後、精神衰弱もひどくなり徐々に漫画を描くペースが落ち、80年代半ばを最後に休筆中。カメラ屋や骨董屋をやったりしたが続かず、現在はのんびりとした生活を送っているらしい

目录:

[ねじ式 下载链接1](#)

标签

漫画

つげ義春

日本

柘植义春

日本漫画

ねじ式

コミック

看不懂硬看的漫画

评论

说不上来……感觉在看某种古早的散文而非漫画

不可名状的感受

真的太棒

沼！！

画梦高手。

最近把“like a velvet glove cast in iron”翻譯完了，其中夢遊經歷與不可名狀，過程裡其實不斷想起這部大名鼎鼎的Garō 奠基作品螺旋式，當然內容上也虛無許多，沒什麼好說的地方，重量“輕”了許多。柘植义春当年的大名作《螺旋式》被一位日本朋友（森翔太）做成了"交互全动态真人影像"的形式。反而在21世紀的我看來，更太天才一些。某些方面真的很想拿一个喜欢的漫画当做一个project 去做，這是一种介于电影和漫画之间的一种新型叙述，視頻的制作精良与贴合原著，第一眼睛的感觉只能说和螺旋式的开头一样mind-blowing。視頻在YouTube上面的播放量之少，实在让人生气。<https://www.youtube.com/watch?v=yzvfqYoxpCk>

你闭上双眼，就能把开倒车想象成前进哦。

最后，青年靠伤口安装的发条止住了血，这真是一个怪奇的梦

现在看什么都特别怕看出套路

精妙!

看不懂啊

很久之前第一次在youtube看到ねじ式平移動畫很喜歡
現在才來讀漫畫(原來他畫畫也是參考了很多照片拷貝一下)

很特別

我真是吃人魔鬼，喜欢无限生成无限镜面的食用法则：吃吃吃吃吃吃吃吃。永恒浸淫的一万万字大书。饕餮大餐我爱！一切短暂的如何示踪——即使它分裂了，贴过来，螺旋着生来死去，它吐舌头、悸动，也无法持续地摆布碾碎我的身体寻到互杀之合的通连错乱感。

strange strange strange

觉得是那种需要多看几遍的漫画

无能之人 宇宙中只有一家人 感觉能好？存疑？基本不能好吧 好耍的都没有 相看三厌也不能狂生孩子吧 啊这么想 正儿八经的神真TM孤单 蛇精病神好玩很多
每月一次天神日 木偶店主 <https://www.douban.com/note/487826911/>

感谢异常漫画研究中心

[ねじ式_下载链接1](#)

书评

日本之所以招人喜爱，最重要的一点，就是它对于隐秘事物的极致捕捉。文学如此，漫画也是这样。手冢治虫开创的漫画帝国之外，游离着一批向内走的漫画家。他们的世界，更为真实和立体，随便几页纸，就能刺痛你，让你返回到炎热又寂寥的夏季，夜晚萤火虫飞舞的路灯下。在商业社会中...

六十年代与《铁臂阿童木》的作者手塚治虫齐名的作家柘植義春（つげ義春）的漫画作品。
铁臂阿童木在中国曾经产生了很大的影响力，但在中国人们更关注的是卡通动画片而不是漫画本身，对作者的关注更少。
柘植義春在日本现代漫画史上是一伟必须要书写的人物，他的作品长篇不多， ...

[ねじ式_下载链接1](#)